

春日井ロータリークラブ 2017～2018年度 WEEKLY REPORT



クラブテーマ

～ロータリアンの第一歩は、まず例会に出席しよう
そして、会員同士をよく知り「アットホーム」なクラブにしよう～

会 長 : 近藤 太門 例会日 : 金曜日 12:30～13:30
副 会 長 : 加藤 久仁明 例会場 : ホテルプラザ勝川
副 会 長 : 野浪 正毅 事務局 : 春日井市鳥居松町5-45
幹 事 : 加藤 宗生 T E L : (0568) 81-8498
会報委員長 : 古屋 義夫 F A X : (0568) 82-0265
E-mail : Ksgi-rc@gaea.ocn.ne.jp

ふれあい緑道

本日のプログラム

- | | | |
|--------------|-------|------------------|
| | 司会 | 大橋 省吾君
近藤 太門君 |
| ・点 鐘 | | |
| ・国歌 | | 「君が代」 |
| ・ROTARY SONG | | 「われら日本のロータリアン」 |
| ・ビジター紹介 | | 近藤 太門君 |
| ・食事・歓談 | | |
| ・委員会報告 | | |
| ・会長挨拶 | | |
| ・卓話 | 米山奨学生 | 易 敏氏 |
| ・幹事報告 | | 加藤 宗生君 |
| ・点 鐘 | | 近藤 太門君 |

先週の記録

会長挨拶

近藤 太門君

こんにちは、先日9月9日2017～2018年度地区審議会及び指導者育成セミナーが行われ、「地区指導者セミナー」で、2014～2015年度の近藤雄亮ガバナーと同年度の横須賀ロータリークラブのガバナーを務められました、渡辺治夫さんの「クラブ運営とロータリーの多様性」と題して講話ありました。2015年のR I、規定審議会において画期的とも思われる改革案が採択されました。各自クラブでの裁量が大幅に認められ、毎年会員減が続く事への打開策につながり、その事によって会員増強が図られるであろうと言う事でした。(1) 女性会員の入会 女性の横のつながりを期待(2) 例会の開催日の自由裁量(3) 入会希望者の審査の撤廃(4) 入会後にロータリアンとして教育をする。等々会員減をどうやって歯止めをするか、いかに入会基準を低くして門戸を開放するかと言うふうに理解しました。

経済と地域社会の発展月間/米山月間

例会予定	10月14日(土)	10月20日(金)	10月23日(月)	11月2日(木)
	WFF	祝福	ガバナー公式訪問	※11月3日例会休会(祝日の為)
	10月13日(金) 例会変更	ミスケローナ	10月27日(金) 例会変更	第5回理事役員会 11:30～

2017年10月6日(金)2340回(10月第1例会)

幹事報告

幹事 加藤 宗生君

9月29日(金) 定款(8-1)による休会日
10月6日(金)
11時30分 理事役員会
12時30分 例会 卓話 米山奨学生 易 敏氏

◎例会変更のおしらせ

名古屋東	10月2日(火) 18:00～
R C	夜間例会の為
名古屋守山	10月11日(水) → 10月10日(火)
R C	ガバナー公式訪問の為ガーデンパレス
名古屋大須	10月12日(木) → 10月10日(火)
R C	合同例会の為 名古屋観光ホテル
名古屋葵	10月12日(木) 8:00～
R C	地域清掃活動の為
名古屋清須	10月17日(火) → 10月14日(土)
R C	WFFの為 ふれあいフェスタ会場
瀬戸北	10月17日(火) → 10月14日(土)
R C	WFFの為 ふれあいフェスタ会場
名古屋城北	10月17日(火) → 10月14日(土)
R C	WFFの為 ふれあいフェスタ会場
江南	10月12日(木) → 10月14日(土)
R C	WFFの為 ふれあいフェスタ会場

名古屋北 R C	10月13日(金)→10月14日(土) WFFの為 ふれあいフェスタ会場
名古屋名駅 R C	10月18日(水)→10月14日(土) WFFの為 ふれあいフェスタ会場
犬山 R C	10月17日(火)→10月14日(土) WFFの為 ふれあいフェスタ会場
名古屋千種 R C	10月10日(火)→10月14日(土) WFFの為 ふれあいフェスタ会場
岩倉 R C	10月17日(火)→10月14日(土) WFFの為 ふれあいフェスタ会場
名古屋東 R C	10月16日(月)→10月14日(土) WFFの為 ふれあいフェスタ会場
愛知長久手 R C	10月17日(火)→10月14日(土) WFFの為 ふれあいフェスタ会場
尾張旭 R C	10月13日(金)→10月14日(土) 苗木配布の為 スカイワードあさひ
名古屋葵 R C	10月19日(木)→10月15日(日) WFFの為 ふれあいフェスタ会場
羽島 R C	10月17日(火) 12:00~ 物故会員法要の為 本覚寺
名古屋千種 R C	10月17日(火) 16:30~ 35周年式典の為 名古屋東急ホテル
岡崎南 R C	10月17日(火) 18:30~ ガバナー訪問の為 岡崎ニューグランド
名古屋アイリス R C	10月18日(水) 親睦夜間例会の為
名古屋丸の内 R C	10月19日(木) 家族会の為 名古屋市民会館

◎例会休会のお知らせ

○瀬戸RC	9月27日(水)休会
○名古屋栄RC	10月9日(月)休会
○あまRC	10月9日(月)休会
○名古屋空港RC	10月9日(月)休会
○岩倉RC	10月10日(火)休会
○愛知長久手RC	10月10日(火)休会
○名古屋城北RC	10月10日(火)休会
○犬山RC	10月10日(火)休会
○名古屋丸の内RC	10月12日(木)休会

出席報告 委員長 梅村 守君

会員 53名	欠席 17名	出席率 67.9%
先々週の修正出席	欠席 0名	出席率 100%

ニコボックス報告 委員長 芝田 貴之君

○またまた、お邪魔します。宜しくお願ひ致します。
ガバナー補佐 鈴木 文勝君

○松菌先生のお話を楽しみにしています。
近藤 太門君

○鈴木文勝ガバナー補佐を迎える喜びで。
加藤久仁明君

○松菌先生をご紹介させていただき喜びで。
川瀬 治通君

○運動会の季節です。明日から10月中旬まで日・祝は運動会の連続です。今日の卓話も楽しみにしています。
小川 長君

○松菌教授の卓話、楽しみにしております。
古屋 義夫君

○葉のせいもあって、前回の例会では居眠りをしたらしい！申し訳ありません。
山田 治君

○三笠宮寛仁親王妃 信子殿下に随行して山形村山市で開催された「バラフェスティバル2017」に行ってきた。
北 健司君

○WFF 会場当番です。皆様、お出掛け下さい。
青山 博徳君

○松菌先生の卓話、楽しみです。
和田 了司君

○卓話を楽しみにしています。
足立 治夫君 梅村 守君 大橋 省吾君

岡本 博貴君 風岡 保広君 加藤 茂君
大原 泰昭君 加藤 宗生君 貴田 永克君

近藤 秀樹君 芝田 貴之君 社本 太郎君
清水 勲君 宅間 秀順君 名畑 豊君

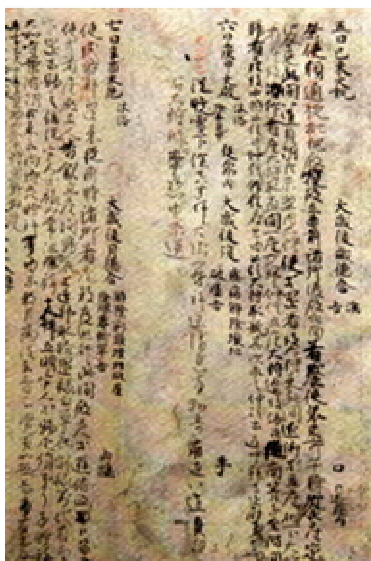
成瀬 浩康君 野浪 正毅君 場々大刀雄君
速水 敬志君 屋嘉比良夫君

○ご協力ありがとうございます。
ニコボックス委員会一同

卓話 愛知学院大学文学部 教授 松菌 斉 氏

古い昔から、ユーラシア大陸の極東、それも島国として存在してきた日本は、大陸の各地で生み出された文明の終着点であり、少なくとも五世紀、日本列島に初めて中央集権的な国家が誕生して以来、他の国家から滅ぼされたり、支配されることも、他の民族が大挙として通過していくこともなかったため、海を越えて選択された文明だけを受け容れ、時間をかけてそれを熟成させ、独自の文化を創造してきたのは確かなように思います。それは、世界的に見て極めて恵まれた存在であったのですが、一方で、日常的に他の文化と接触

して、その価値を認識したり、グローバル・スタンダードな形に磨くことには無頓着であったという問題もあるように思います。日本文化の価値や独自性を“発見”するのが、得てして外国人だった、というのはよくある話で、仏像や浮世絵などの美術などは、その代表的な事例でしょうが、文化と密接に結び付いた感覚や意識、信仰、そして道徳までもが、自国以外でも通用するという錯覚に陥ってしまい、時にトラブルを生じることもあることもあまり気づいていないところがあるようです。特にそれが日常生活の中に自然に溶け込んでいるものについては、なかなかそれを知るのは難しいでしょう。日記を記すということも、近代以降、世界中で行われているように感じてますが、そもそも文字が書け、それを記すべき媒体（主に紙ですが）が相当に豊かに入手が可能でなければ、一般の人が日常化するのには難しい為だと思われれます。今日、「～日記」といった題名で、実際の日記やまたはそのような形態をもった小説などが時々出版されているのを見かますが、これも日本人がその題名から感じるイメージと外国人のそれとは異なっていると考えられます。今回お話ししたのは、日本人が日記というものを生活・文化両面で極めて身近なものと考えていること、そしてそれは長い歴史の中で作り出されてきたということです。



平安時代の半ば、10世紀～11世紀頃、いまや世界の古典として様々な言語に訳され読まれている長編小説の『源氏物語』が、紫式部という一人の女性の手で生み出されましたが、その前後に『蜻蛉日記』や『更級日記』など日記の名を付けた回想録的な作品が、同じく女性たちによって創造されています。彼女たちがこのような作品を生み出したのは、すでにこの時代、日記を記すことが当時の天皇や貴族たちの間で習慣化されていたからなのです。そして、その伝統は、以後今日に至るまで、その担い手を拡大しながら続いてきたの

です。ご紹介した藤原道長（当時の最高権力者で、教科書にも載っているあの人物）も他の貴族と同様、日記を記しており（『御堂関白記』、みどうかんぱくき、右の写真）、たまたま書いた時のままで今日まで残されたその日記は、近年その価値が一般にも認められ、世界記憶遺産の一つに認定されました。

日本人は、日記を書くだけでなく、日常や旅の日記（松尾芭蕉の『奥の細道』など）を古典として読み楽しみながら、日記を身近な存在、かつ一つの文化として育ててきたように思われます。小説や詩などの文学、演劇や音楽などの芸術、それぞれの持つ比重は、国や民族によって少しずつ異なっていますが、日本では、「日記」がその中に独自の位置を占めているようです。それに早く気付いたのも、ドナルド・キーンさんという、アメリカ人（現在は日本に国籍を変えられました）の日本文学研究者だったというのも、同じように“発見”された日本文化の一つだったという点も興味深いのです。

会長あいさつ 近藤 太門君



卓話 愛知学院大学 文学部 教授 松蘭 斉氏

